

# 図書館のあれこれ

今回は「学校図書館」について紹介します！

「学校図書館」って初めて聞いた！というあなた。実は学校にある図書室のことなの。私たち図書館員は、図書館の外でも仕事をしているんですよ！

のりちゃん:司書歴〇十年のベテラン司書。どんな質問にも全力で答えてくれる。嫌いな食べ物はかなり多い。卓球がとても強い。

市内全小中学校に行き、全ての本の分類・除籍をしたり図書室の使い方を教えたりと子どもたちと教師が使いやすい図書室となるようなお手伝いをしてきました。



そして、今年度5月からは市内小中学校図書館に図書館システムを導入していきます。蔵書構成や児童生徒の読書傾向などが簡単にわかるようになります！



探しやすい！



## 知ってた💡 知らなかった❓ これで1つ天才に... file.1

図書館であったレファレンス（質問）の中から皆さんの役に立ちそうなものをご紹介します！

五所川原出身の元大関「清水川元吉（長尾米作）」をご存知でしょうか。「古今上手投げの三大関」のひとりといわれていたほどの伝説の力士なのです。今回紹介するレファレンスは、清水川の血縁の方はいるのかというものでした。このレファレンスの回答ですが、血縁の方の実家は今も本市にあり、相撲研究家の方も浪岡にいらっしゃいます。清水川に関する当館所蔵の資料は、「三好村郷土誌 (G251/4)」「青森県郷土力士物語 (A788/3)」などがあります。

みなさん、この「清水川元吉」という名前を聞いて何か思い出しませんか？実は立佞武多「軍配」のモデル（平成十二年製作）にもなっていたのです！歴代の立佞武多が載っているパンフレットも当館ございます。見たい方はぜひ、お声掛けください。そんな清水川ですが、遠藤などが所属している「追手風部屋」で弟子を養成して晩年を過ごし、昭和42年に67歳で亡くなりました。本市にもこんなにすごい人がいたのだと思うと、なんだかとても誇らしいですね。



## 4コマまんが「ほくろと星座」



『やさしい星座のみつけ方』藤井旭・塩野米松：著

# 本古知新

論語にある「温故知新」をもとにして図書館といえば「本」、五所川原市立図書館といえば「古」くからの郷土資料が多く揃っているという当館らしいタイトルを考えました。読み方は「ほんっこしん」と律軽弁で読んでください。※は律軽弁独特の「ち」と「つ」の中間の発音です。



【表紙第一号】図書館一の利用者、岩崎さん。郷土史家で地元のために幅広く活動しています。おすすめ本は、『青森県史 資料編近現代4 昭和恐慌から「北の要塞」へ』(A/210/7)

**発行** 五所川原市立図書館  
〒037-0046 五所川原市字栄町119  
TEL:0173-34-4334  
FAX:0173-34-3256  
E-mail:tosyokan@city.goshogawara.lg.jp

# 館内案内

## 【お近くの図書館利用が便利になりました！】

五所川原圏域定住自立圏内の6市町（五所川原市、つがる市、中泊町、鶴田町、鱒ヶ沢町、深浦町）にお住まいの方は、6市町すべての図書館及び図書室で「身分証明書」の提示だけで貸出券を作ることができます。

## 【授乳室ができました！】

市立図書館2階「対面朗読&おはなしの部屋」に「授乳室」ができました。小さいお子様がいる方は、ぜひご利用ください。



## 【図書館HP・Facebookを知っていますか？】

図書館ではHPとFacebookをやっています。HPでは本の検索の他にご自分の利用状況確認や新着図書メール配信の設定などができます。Facebookでは、最新のイベント情報や展示の様子などを載せています。ぜひ、チェックしてみてください！

## 考古シリーズ コレなんだ？

五所川原市には土器や石器などの考古遺物がたくさんあります。それだけ見ると何に使ったのかわからないですが、今のものに例えながらいろいろなものを紹介していきます！



### けつ状耳飾り (けつじょうみみかざり)



これは、今から約6000年から4000年前の縄文時代に使われていたもので、「けつ状耳飾り」といいます。けつ状耳飾りとは、むかしの中国で玦（けつ）という玉器（アクセサリーのこと）に似ていることから名づけられました。今の女性と同じように耳たぶに穴をあけ、ピアスのように耳に通してつけたと考えられています。



※イメージです →

けつ状耳飾りは、五所川原市の原子という場所から二つに割れたままで発見されました。発見された方のご厚意で市に寄贈してもらいました。緑がかかった灰色の石で作られ、表面はなめらかです。まんなか丸い穴があけられ、そこから下へ細長い切れ込みがあります。まんなかの両側に小さい穴が二つありますが、割れたあとに縄文人が紐をとおして使い続けたと考えられます。縄文人はものを大切に使用していたことがわかりますね。この耳飾りの他にも櫛やネックレスなどいろいろなアクセサリーをもっていました。縄文人はとてもオシャレだったんですね。

# 祝 開館40周年

市立図書館は1977年7月20日に開館し、今年で開館40周年を迎えます。開館当初はどんな様子だったか、かすかに記憶にある人、全く知らなかった人…40年前はこんなでした！

ロビーから見た「児童閲覧室」

“開館時間”

開館	は……午前9時30分から
夏期時間	……午後5時30分まで
冬期時間	……午後4時30分まで

ロビーから見た「開架室」

“休館日”

毎週月曜日。 毎月末日。 国民祝日。  
年末12月28日から～年始1月4日まで。  
ばく書日。  
◎貸出は1回に1人2冊まで1週間以内。

当初は冬期時間というものがああり、閉館時間が「午後4時30分まで」だったようです。

貸出は1人2冊まで！  
今では10冊…

これは1階ロビーです。  
これはなに？  
ヒント：2階閲覧室にあり



2階からみた一般室。  
違いがわかりますか？

これはなんと児童室！  
今とまったく違います…

